

雄勝稲作情報

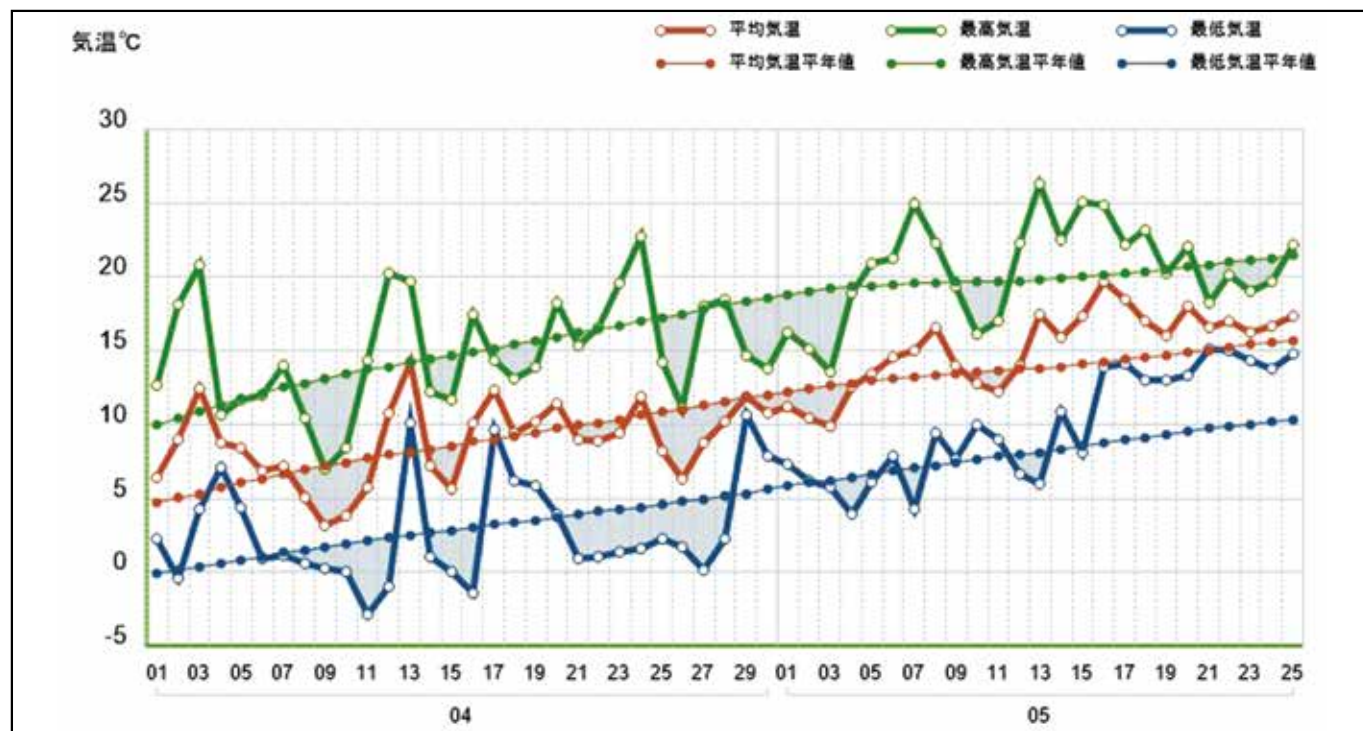
No.4 令和3年6月4日



発行 ● 雄勝地域振興局農林部農業振興普及課
 雄勝地方病害虫防除員協議会
 監修 ● 秋田県農業共済組合
 湯沢市農業総合指導センター
 湯沢主食集荷商業組合
 湯沢市農業協同組合
 湯沢市農業協同組合
 湯沢市農業協同組合

これまでの気象経過

(4月1日～5月25日：アメダス湯沢)



雄勝管内の播種盛期は4月25日（平年並）となりました。4月下旬は低温傾向となったものの好天日が多かったことから出芽は概ね良好でした。その後、気温はやや高めに推移したことから、苗の生育は概ね順調で、苗立枯病などの障害は例年より少なくなりました。

田植作業は始期が5月19日（平年並）で、盛期が5月24日（平年差1日早）となりました。気温がやや高めに推移していることから、活着は概ね順調と見られます。

東北地方予報【向う1ヶ月の天候見通し】

(令和3年5月27日発表)

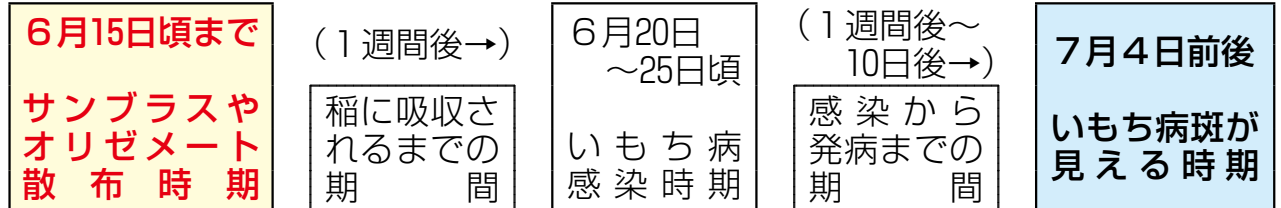
【平均気温】 平年並か高い見込みです。 (低20%・並40%・高40%)
 【降水量】 多い見込みです。 (低30%・並30%・高40%)
 【日照時間】 少ない見込みです。 (低40%・並30%・高30%)

葉いもちの予防対策を徹底しましょう！

●サンブラス粒剤やオリゼメート粒剤の散布は感染前に！

葉いもちは例年、6月20日～25日頃には感染、7月4日頃から病斑が見られ始めます。サンブラス粒剤やオリゼメート粒剤が防除効果を発現するまでは、散布後約7日を要しますので、**サンブラス粒剤やオリゼメート粒剤を6月15日頃までに散布します。**

田植え前の箱施用剤（いもち剤入り）や移植時のペースト混和剤（いもち剤入り）を使用していない場合には、確実に散布しましょう。



●いもち病を見つけたら！

予防剤と治療剤の混合剤（ブラシン剤、ノンブラス剤、トライ剤）の茎葉散布を実施し、その後、必要に応じてビーム剤を追加散布します。

※フサライド剤（ラブサイド、ブラシン）、トリシクラゾール剤（ビーム、ノンブラス）の本田での総使用回数はそれぞれ3回以内、テブフロキン剤（トライ）は2回以内なので注意してください。

薬 剤 名	剤 型		
	粉 剤 D L 3～4kg/10a	ゾル 1,000倍 100～150L/10a	フロアブル 1,000倍 100～150L/10a
ノ ン ブ ラ ス	○		○
ブ ラ シ ン	○		○
ビ ー ム	○	○	
ト ラ イ ^{*1}			○

※1 トライは60～150Lで1,000倍

《いもち病ズリコミ圃場の様子》



注意！

補植用の苗を放置しておくと、いもち病の発生源になります。
余り苗は直ちに泥の中に完全に埋めて処分して下さい！

例年、いもち病が多発しているほ場が散見されました。いもち病の発生は周辺ほ場へも大きな影響がありますので、早期発見・早期防除に努めてください。

今後の管理について

目標茎数を確保しましょう！

雄勝地域の「あきたこまち」目標茎数

6月25日～30日頃 8～9葉期（有効茎決定期）

目標茎数420本/m²確保（株当たり茎数の目安） ●60株/坪…23本/株 ●70株/坪…21本/株

※生育が遅れている場合は目標茎数まで分げつ促進を図ります。

※有効茎決定期は、天候により時期が前後する場合があります。

中干し（または深水管理）による分げつ制御

目標茎数を確保したら中干しまたは深水管理で無効茎の発生を抑制します（6月下旬）。

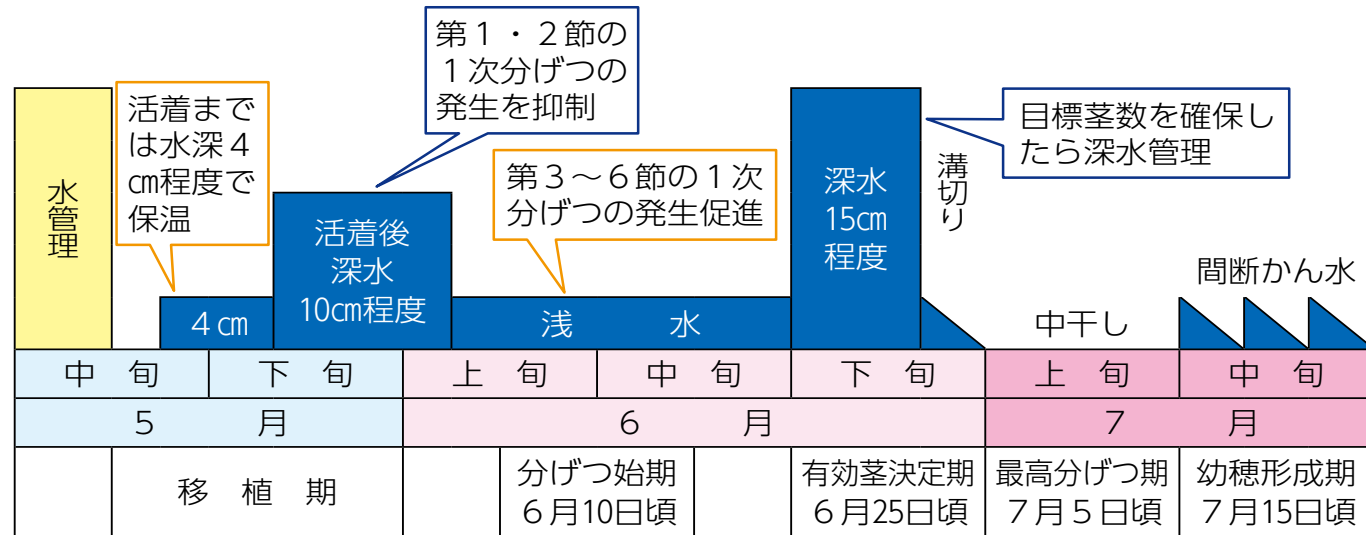
中干し期間は7～10日位とし、田面に亀裂が1～2cm入り足跡がつく程度です。

中干し終了後は間断かん水とし、土壌を酸化的な条件に保ち根の伸長を促進するようにしましょう。

溝切りの適切な実施について

田面の均平が悪く落水しにくい場合や排水不良田は、溝切りを行いましょう。溝切りを行うと水の回りが早くなるため、より確実な水管理を行うことができます。

また、排水も素早く行うことができ、中干の効果が高まります。登熟後半まで水を張ることができるため、根の活力が維持され、登熟歩合の向上に繋がります。



微量要素肥料の追肥（調節肥）で異常気象に強い稲を！

水稻はケイ酸や苦土など微量要素を土壌から吸収しています。

微量要素の施用は、米の生産性や品質の向上、異常気象（高温、低温、強風など）に強い稲づくりに繋がります。

微量要素入り肥料（例）

肥料名	施肥量(kg/10a)	施用時期	備考
けい酸加里	20～40kg	6月下旬～7月初旬	① 倒伏抵抗性が高まる。 ② 根の活力向上。 ③ 有効茎歩合の向上。 ④ 登熟歩合の向上。 酒米には特にお奨め
P K 化成 40号			
サンメイト			
マグホス	1.4kg		
K S K 28			

農薬の使用は安全・適切に！

これからの時期、農薬の使用が多くなります。次の事項に留意しましょう。

安全使用の基本事項

・農薬の使用基準を遵守し、防除履歴を記録しましょう。

農薬使用上の諸注意

・周辺作物に飛散（ドリフト）しないように風の強い時間帯を選び、十分注意し、周辺ほ場の生産者と農薬散布時期や収穫時期についてよく話し合うこと。

・農業用マスクや手袋、帽子、長靴、長袖シャツ、上衣、長ズボン、保護クリームなど散布作業に適した保護具を着用しましょう。

・農薬散布後はタンクやホース等、散布器具の洗浄を徹底して行うこと。

農薬の取り扱い上の注意

・農薬の保管管理には十分注意すること。

・農薬を他の容器（清涼飲料水の容器等）へ移し替えないこと。

一発除草剤使用後の残草対策

○ヒエやホタルイが残草するとほ場内がアカスジカスミカメの産卵・繁殖場所となります。適期を逃さず、中・後期除草剤で処理しましょう。

残草の種類	除草剤名	使用時期（移植水稻）	使用方法
藻類・カナ（表層はく離）	モゲトン粒剤 モゲトンジャンボ	発生初期 但し、収穫45日前まで	湛水散布
ノビエのみ	クリンチャー1キロ粒剤	1kg/10a… 移植後7日～ノビエ4.0葉期まで 1.5kg/10a… 移植後25日～ノビエ5.0葉期まで	湛水散布
	ヒエクリーン1キロ粒剤 ワンステージ1キロ粒剤	移植後15日～ノビエ4.0葉期まで	湛水散布
	トドメMF1キロ粒剤	移植後14日～ノビエ5.0葉期まで	湛水散布
ノビエ及び ホタルイ、 コナギ、 オモダカ等 の同時発生	レブラス1キロ粒剤 ゲパード1キロ粒剤	移植後14日～ノビエ4.0葉期まで	湛水散布
	ヒエクリーンバ サグラン粒剤	移植後15日～ノビエ4.0葉期まで	ごく浅く湛水して散布
	クリンチャーバスME液剤	移植後15日～ノビエ5.0葉期まで 使用量1000ml/10a 散布液量70～100L/10a	落水もしくはごく浅く湛水して散布

ノビエ除草の使用時期については、上記葉齢期前までの早めの散布で効果が高まります。

※除草剤によって散布時期や散布時の水管理が異なりますので、使用前には必ずラベルをよく読み適正に使用して下さい。